

【書評】

東アジア共同体は可能か、必要か

文 吉田 春樹 (吉田経済産業ラボ代表) text by Yoshida Haruki

本書を編集した東アジア共同体評議会は、東アジアに強い関心をもつ産官学各界の有識者が、その共同体に関し一堂に会して議論する「場」である。評者も、設立当初からのメンバーの一員である。

日本経済は今あまり元気がないが、多くの人が、これから生きていく道は東アジアであると考えている。だが、そこに迷いがないでもない。本書は、その副題に「東アジア共同体は可能か、必要か」とあ

る。

このテーマは、日本ではこの人たちをおいてはいないという大勢の有識者たちが、執筆者として、報告者や討議者として、

とも東アジアに関係あるビジネス・パーソンには必読の書といえる。評者の立場から一言。通勤の車内で軽く読むには、いささか分厚い本である。

本書作成に参加している。それだけに切り込みは鋭く、奥の深い内容である。多少なり



『東アジア共同体白書 二〇一〇』

東アジア共同体評議会編 たちばな出版 2500円＋税